

新しいウィーン

オーストリアには斬新な現代建築がたくさんあります。建築の過去と現代がこれほど完璧に融和している国も珍しいでしょう。

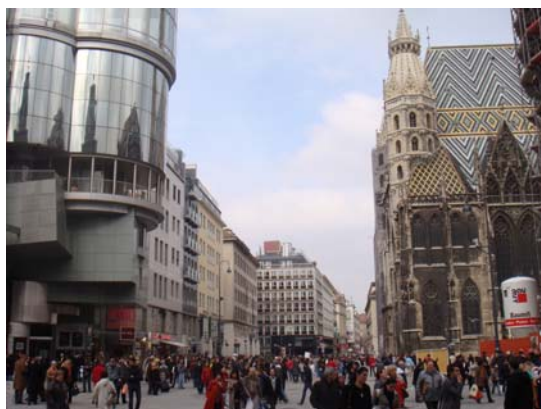


正面から見たハースハウス

伝統的な建造物の中に現代がうまく溶け込ませた実例の中で最も目を引くのは、ウィーンのシュテファン広場です。ここには、ゴシック様式のシュテファン寺院のすぐ隣に、1990年ポストモダンのパイオニアの一人、ハンス・ホラインの設計でハースハウスが建てられました。特に鏡面ガラスの出窓がこの建物に都市型建築のアクセントを与えています。そのため、長きに渡ってオーストリア戦後史の中で最も議論を呼んだ建築物でもありました。



シュテファンプラッツ、1900年頃の絵葉書



左に見えるのがハースハウス

オーストリアのイメージを決定付ける建築家は、ホラインだけではありません。他の例では、画家としての活動と並行して種々の建物をデザインしたのが、環境保護芸術家として世界的に著名フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー(1928-2000年)です。ウィーンのフンデルトヴァッサーハウスは、今では、オーストリアで最もビジター数の多い建物のひとつとなりました。この建造物には、52戸の住宅と、4つの商業物件が入っています。この住宅や商業物件の一つ一つが、独自の色を持ち、全部で250の樹木や灌木によって豊かな緑にあふれています。この遊びのある建築は、蜃気楼をイメージしたものです。日本でも、フンデルトヴァッサーによりデザインされた大阪市のごみ処理工場「舞洲工場」と汚泥集中処理場の「舞洲スラッジセンター」があります。



フンデルトヴァッサーハウス(写真提供: オーストリア政府観光局)